みつめる

挿入歌　しあわせ運べるように

●3人　　「募金お願いしまーす！」

●ひかり　　「まさかここでまた2人と会えるとは思わなかった！」
●あやの　　「分かるー！高校はバラバラだし、予定合わせるのも大変だったから、もう会えないと思ってたよ」
●ことみ　　「ね！ほんとにびっくりした！それにしても寒すぎる〜！3月ってこんなに寒かったっけ!!?」
●あやの　　「うわ！雪も降ってきたんだけど！」
●ひかり　　「ずっと立ちっぱなしなのも疲れるよね、」
●ことみ　　「ほんとそう！まぁ内申点のためだし、!こういうボランティア活動には積極的に行かないと！」
●あやの　　「相変わらず真面目だねぇことみちゃんは。私めんどいし 寒いからもう帰りたいよ〜」
●ひかり　　「あやのちゃんはどうしてこのボランティアに参加したの？？」
●あやの　　「このボランティア活動しか残ってなかったから！やりたくなかったけど、、赤点ばっかり取っている私には、もう内申点を稼ぐしか方法がなーい!!!!」

●ひかり　　「そ、そうなんだね、、」
●ことみ　　「お疲れさまw」
●あやの　　「そういう2人はなんのために参加したのさ！！」
●ことみ　　「いや、私も内申点稼ぐためだけど、あやのちゃんより必死にならなくていいと言うか、、テストの点には困ってないからなぁ」
●ひかり　　「私もことみちゃんと同じ、点には困ってないよ。けど、私どうしてもこのボランティアやりたいの。だから参加したんだ」
●あやの　　「ふーん、たしかに、中学の時から2人揃って頭良かったもんね！そりゃ点には困ってないだろうね!!私だって頭良かったら、こんな寒い中わけも分からんイルミネーションがたくさんあるお祭りのボランティアなんてやってないわー!!」
●ことみ　　「あやのちゃんそれは言い過ぎだよ、でも、私も実はあんまりよく分かってないんだよね、このイベントの目的。学校から配られたプリントには、「テント設営、募金の呼びかけ、ゴミ拾い等のボランティア」としか書かれてなかったし」
●あやの　　「それなー！しかもこのお祭りずーっと前からあるみたいだし、決まってなぜか3月の上旬から中旬にかけてやってるからね、お祭りなら夏だし、イルミネーションやるならクリスマスとかじゃない？？」
●ひかり　　「2人は、このイベントの目的、知らなかったの？？」
●ことみ　　「うん、知らないよ」
●あやの　　「逆に、ひかりちゃんは知ってて来てるの？？てか聞きたかったんだけど、このボランティアをどうしてもやりたかった理由ってなに？」
●ことみ　　「それ、私も気になってたの、良かったら教えて？」

●ひかり　「んーー…」
●ことみ　「あ、言いづらかったら言わなくてもいいよ？」
●ひかり　「いや、2人だから…でも…(悩む)」
●ことみ　「ひかりちゃん？」
●ひかり　「まぁ、、大丈夫か…… あのね」

あやの、話を遮るように

●あやの　「あ！あれうちの高校の友達だ、オーイ！そのイルミネーションの写真送ってよー！」

あやの、友達のもとへ行くため1度はける

●ことみ　「あぁ、あやのちゃ〜ん、持ち場を離れちゃダメだし、今はひかりちゃんの話を聞く時だよ、、ってもう遅いか」
●ひかり　「相変わらず人の話を聞かないんだから、まったく、もう話す気無くなったよ」
●ことみ　「まぁまぁひかりちゃん怒らないで、
あやのちゃんだって悪気があってやってる訳じゃないし、中学の時もこんな感じだったじゃん？」
●ひかり　「いい意味でも悪い意味でも成長してないって事だね」

ひかり、ことみ笑う。あやの戻ってくる

●あやの　「じゃ、お互いお祭り楽しもうね〜！ごめーん！友達居たからつい行っちゃった！」
●ことみ　「もう持ち場を離れちゃダメだよ？あとプラカードも！」
●あやの　「ごめんじゃ〜ん　で、ひかりちゃん、さっきの話の続き！」
●ひかり　「あやのちゃんがどっか行った時点で、話す気無くなっちゃいましたー」
●あやの　「え゛ぇ〜そんなぁぁ どうかお願いしますよぉ気になるよぉ」
●ひかり　「また今度ね」

●ことみ　「あ、あの人私の高校の友達だ。また妹さんといる。見ての通り、妹とすっごく仲良しでうちのクラスでも話題になってるんだ、姉妹仲がいいのって凄く素敵だよね」
●あやの　「いいなぁ私のお姉ちゃんはあんなに優しくしてくれないよこの前だって私が赤点を取ってきた時、お姉ちゃん鼻で笑ったんだよ!?ありえない！可愛い妹が絶望的な点数を取ってきたっていうのに！しかもさぁ・・・」

あやの音無し+身振り手振りで喋ってる

●ひかり　「いいなぁ姉妹。私にも、お姉ちゃんがいたら、あんな感じだったのかな(ボソッと)」
●ことみ　「ひかりちゃん、何か言った？」

●ひかり　　「ううん、何でもないよ、気にしないで」
●ことみ　　「？　うん」
●あやの　　「・・・ってことがあってさぁ酷いと思わない!!?ほんっとうちのお姉ちゃんは人使いが荒いんだから！」
●ひかり　　「あ、、ごめん聞いてなかった」
●あやの　　「なんで聞いてなかったの〜、もう1回喋ろうか！」
●ことみ　　「いや！遠慮しとくよ」
●あやの　　「え〜」
●ひかり　　「お姉ちゃんがいるって…いいね」
●あやの　　「ん〜、時々話し相手にはなるけど、、それ以外は最悪だよ！」
●ことみ　　「あやのちゃん落ち着いて」

ボランティア終わりのアナウンスを聞く3人

●ことみ　　「あ、ボランティアの時間終わったって」
●あやの　　「終わったー！ねぇねぇ！今から3人でお祭り回ろうよ！私さっきから気になってる屋台あってさ！」
●ことみ　　「なんの屋台？」
●あやの　　「あそこのクレープ！有名なところだし数量限定でね、さっきからずっと売り切れないでくれ〜って願ってたところなの！」
●ことみ　　「なるほどね、そんなに食べたかったんだ」
●あやの　　「やっぱお祭りと言ったらクレープでしょ！あとは焼き鳥も焼きそばもたこ焼きもベビーカステラも！ぜーんぶ食べたい！！」
●ことみ　　「わかったわかった、皆で食べようね」
●あやの　　「イルミネーションも超キレイだし！この季節にこういうお祭りあるの、ほんっと最高だよね！ねぇ早く行こうよ」
●ことみ　　「分かったってば、ちょっと待って」

●ひかり　　「あ、あのさ、その、お祭りっていうのさ、、やめない？」
●あやの　　「ん？何？聞こえないよ、お祭り回る時間ないとか？」
●ひかり　　「・・・」
●ことみ　　「大丈夫？」
●あやの　　「ねぇ〜早くしないとお祭り終わっちゃうよ〜早く行こーよ！」
●ことみ　　「ち、ちょっとあやのちゃん、」
●ひかり　　「…お祭りじゃない」
●あやの　　「ねーぇ！早くいこ！売り切れちゃうよ！クレープ」
●ことみ　　「だからちょっと待ってってば、ゆっくり行こうよ」
●あやの　　「嫌だよぉ早く行きたいよ〜！、お祭りお祭り〜」

●ひかり　　「お祭りなんかじゃない！！」

その場がしんと静まりかえる

●ことみ　　「ひかりちゃん、、？」
●ひかり　　「あ、、、なんでもない。大声出してごめんなさい」
●あやの　　「わ、私なにか嫌な事した？」
●ひかり　　「なんでもないってば！」
●あやの　　「なんでもないわけないよ！いきなりどうしたの？」
●ことみ　　「それに、さっきのお祭りなんかじゃないって、、」

ひかり、黙る。ことみ話しかける

●ことみ　　「ひかりちゃん、何か引っかかることがあるんじゃないの？」

ひかり、数秒後頷く

●ことみ　　「あやのちゃん、聞こう？ 話してくれないかな？」

沈黙の後、ひかり喋る

●ひかり　　「私たちが生まれるよりも前、2011年の3月11日に 東日本大震災っていう、とても大きな災害が福島を襲ったの。2人とも、それは知ってる？」

●ことみ　　「確か、、小学校の時に特別授業とかでやったような気がする。」
●あやの　　「私も、東日本大震災っていうものがあったのは知ってるよ」
●ことみ　　「でも、それとこれとはどう関係があるの？」

●ひかり　　「地震だけじゃなくて、津波の被害もあった。そして、、福島は原発事故も重なった。　このイルミネーションは、震災で亡くなった方々の鎮魂や慰霊の意を込めて灯されたものなんだ。」

●あやの　　「詳しいんだね、ひかりちゃん」
●ひかり　　「私のお姉ちゃん、東日本大震災で亡くなったんだって」
●あやの　　「え、、、」
●ひかり　　「びっくりでしょ？私にお姉ちゃんがいたなんて、、この前お父さんに呼ばれてさ、あなたももう大人だしお母さんも前を向けるようになったからいいだろうって話をされて、女の子が写ってる1枚の写真を渡されたの。その子 お姉ちゃんだよって言われた。その時点で凄く驚いたのに、私のお姉ちゃん、震災で亡くなったんだよってその時初めて聞かされてね、、仏壇にも写真がなかったし、お母さんから聞いた事も無かったから余計に驚いた。お父さんがね、お姉ちゃんの写真を見ていつまでも泣いているお母さんに、『一緒に前に進もう』って言って写真を預かってたんだってさ、だから仏壇に写真が無かったの。お姉ちゃんが生きてた頃の話や、どうして亡くなったのか、色んなことを聞いた、、、」
●あやの　　「お姉さん、どんな風に亡くなったの？」

●ひかり　　「言いたくない、話したくない、、忘れてはいけないけど、思い出したくないの」
●あやの　　「そ、そうだよね、ごめんね」

●ひかり　　「東日本大震災ってどんなのかなって、気になって調べてみたの。途中で目を背けそうになった。お姉ちゃんはどんなに怖かったんだろう、お姉ちゃんが帰ってこないことを知ったお母さんとお父さんは、どんなに絶望したんだろうって思ってね。そんな時に、東日本大震災に関連するものって、このイルミネーションのサイトが出てきたの。私、震災を体験してないし、当事者の気持ちはあまり分からない。けど、ただイルミネーションを見るだけじゃなくて、何か協力したいなって強く思ったの。だからこのボランティアに参加しているんだ」

●ことみ　　「あの時に言ってた意味ってこういうことだったんだ、、」
●ひかり　　「こんな形で答え合わせすることになって、2人には申し訳ないなって思ってる、」
●あやの　　「そんなことないよ！むしろ、、こっちが イルミネーションの本当の意味を知らずに、ただのお祭りとして来てた事が申し訳ないって思う、」

●ことみ　　「東日本大震災から、もう20年か、」
●ひかり　　「うん、皆、ほぼ忘れてる」
●あやの　　「じゃあ、私達が伝えればいいじゃん！覚えてる人が何かしないと、皆忘れちゃう、そんなのダメだもんね！」
●ことみ　　「具体的に、何をするか考えてるの？」
●あやの　　「何も考えてない！…けど、やろうと思えばなんでも出来るじゃん！！」
●ことみ　　「確かに、私達なりに考えてみるのって大事かもね！」
●ひかり　　「2人とも、ありがとう」
●ことみ　　「ねぇひかりちゃん、これが鎮魂のためのイベントなら、慰霊塔とかあるんだよね」
●ひかり　　「うん、あるよ」
●ことみ　　「じゃあ、そこで黙祷しよう、それから3人で回ろうよ」
●あやの　　「賛成！じゃ行こ！早くしないとクレープ売り切れちゃう！」
●ことみ　　「あ、たった今売り切れたみたい」

あやの、膝から崩れ落ちて

●あやの　　「嘘だぁぁぁぁあああ」

ひかり、ことみ、顔を見合わせて笑う
あやのを励ましつつ後ろを向く。
ひかり、真ん中でイルミネーションを見てる

挿入歌　しあわせ運べるように

3人で歌う

完

福島しあわせ運べるように合唱団